

## 景観まちづくり情報シート(受託事業)

活動団体名	公益社団法人長野県建築士会 景観整備機構
受託事業名	松本城三の丸地区 整備基本方針
受託先	長野県松本市 都市政策課
事業年度	平成 27 年度 (事業費 : 2,888 千円)

### 事業の概要

「松本城三の丸地区整備方針」は、松本城外堀から総堀跡、女鳥羽川までの松本城三の丸地区の中でも、大名町と西側の土井尻町を検討地区として、これからの中心市街地のあり方と松本城を核とした都市デザインを考える計画です。

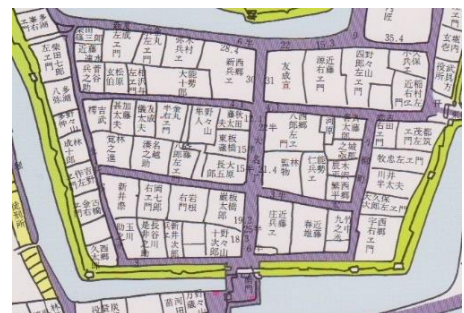
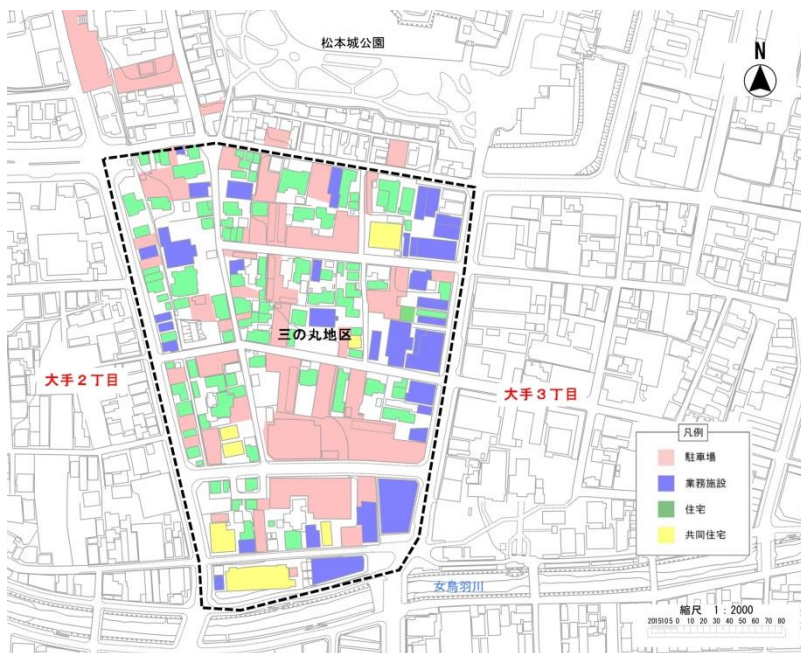
### 〇目的

地方の時代として、自然環境、歴史風土、地域文化、地場産業などを活かした地方都市の魅力再生と持続可能なコンパクトシティの整備が唱えられる一方で、中心市街地では居住人口や就業人口が減少をつづけています。空きビル、空き店舗、空き家、空き地が目立ち、中心市街地に活力を取り戻す事が、地方都市共通の課題となっており、松本市中心市街地も例外ではありません。それらの問題と向き合い、居住のあり方やまちなかでのアクティビティを考えながら、松本中心市街地の諸問題に対するまちづくりの提案となる事が、今回の計画の最も重要なテーマです。

### 〇内容

広く中心市街地や松本城三の丸全体の歴史的変遷や現況を考察しつつ、既に事業に着手した外堀の復元と都市計画道路内環状線北線の拡幅、二の丸からの移転が決定している松本市博物館、大手門枳形跡周辺の整備、市役所の建替え構想など、大名町や土井尻町を取り巻くまちづくりの動きと合わせながら、現況改善の対処療法的なまちづくりではなく、松本市中心市街地の将来ビジョンに基づいた計画を提案します。また活動を継続するまちが段階的に移り変わるプロセスプランも提示します。

松本市では、市民や行政と地元専門家が共働しながらまちづくりを推進しており、今回の計画も長野県建築士会松筑支部が検討を行います。また、今回の構想では、東京大学工学部都市工学科の窪田亜矢特任教授と、松本市都市政策アドバイザーの倉澤聡氏の助言をえながら、より広い都市的な考察に基づいた整備方針を提示します。



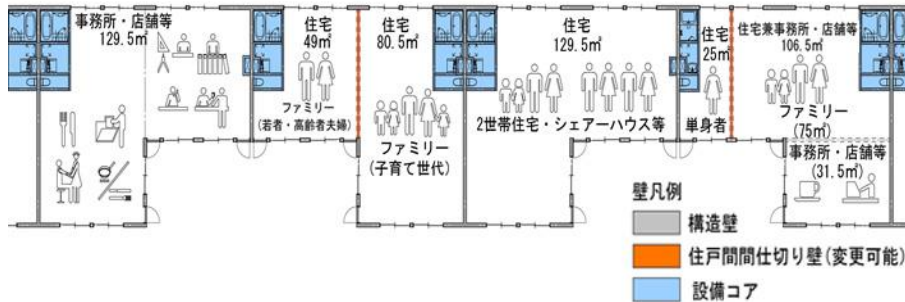
三の丸の上級武士の武家地



人々が働き、交流する町

<提案した内容の一例です>

※フレキシブルな住宅



様々な人々が集まって住む為には、住人の構成や目的に合ったプランが必要です。構造躯体(外壁)と浴室などの水廻りの設備コアを変更せず、住戸間の間仕切り壁を変更することで多彩なプランが可能となる様になります。住人が変わっても、次に住む人の目的に合わせて間仕切り壁を変更する。まちなかに居住する人を持続的に確保する。まちなかの集合住宅の大切な要素です。

※まちなかのシルエット

銀座の商業ビルのまちなみ、新宿副都心の高層ビル群などのシルエットは、まちを印象づける大きな要素です。松本でも、昭和の中頃に鉄筋コンクリートの商業ビルが建ち始め、昭和の終わりに、松本城の西側に 10 階建てのマンションが建てられ、景観論争に発展します。その中で 1973 年(S43 年)に東京大学大谷研究室による松本城周辺整備調査(通称:大谷レポート)が出され、松本城二の丸を視点場とした天守閣と北アルプスの眺望を保全する、全国でも先駆けとなる景観に関するレポートがまとめられました。その後、松本城周辺の建物高さを 10m から 20m の間に定めた高度地区が制定されます。

